

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	平成26年7月11日
【四半期会計期間】	第51期第3四半期（自平成26年3月1日至平成26年5月31日）
【会社名】	株式会社サダマツ
【英訳名】	SADAMATSU Company Limited.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 貞松 隆弥
【本店の所在の場所】	長崎県大村市本町458番地9 （上記は登記上の本店所在地であり実際の業務は下記において行っております。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	東京都目黒区中目黒二丁目6番20号
【電話番号】	03-5768-9957（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経営戦略室長 磯野 紘一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第50期 第3四半期連結 累計期間	第51期 第3四半期連結 累計期間	第50期
会計期間	自 平成24年9月1日 至 平成25年5月31日	自 平成25年9月1日 至 平成26年5月31日	自 平成24年9月1日 至 平成25年8月31日
売上高(千円)	5,759,542	6,145,804	7,899,506
経常利益又は経常損失()(千円)	19,100	109,037	105,815
四半期(当期)純利益又は四半期純損失()(千円)	54,732	36,228	10,075
四半期包括利益又は包括利益(千円)	11,649	45,243	53,760
純資産額(千円)	1,358,499	1,451,233	1,423,910
総資産額(千円)	5,796,108	6,125,083	5,758,366
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は1株当たり四半期純損失金額 ()(円)	4.91	3.22	0.90
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)		3.16	0.88
自己資本比率(%)	23.2	23.4	24.5

回次	第50期 第3四半期連結 会計期間	第51期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成25年3月1日 至 平成25年5月31日	自 平成26年3月1日 至 平成26年5月31日
1株当たり四半期純損失金額()(円)	6.15	0.45

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第50期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

3 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成25年9月1日～平成26年5月31日）におけるわが国経済は、政府による経済政策や日銀の金融緩和策の効果により、企業収益の改善や個人消費に持ち直しの動きがみられるなど、緩やかな回復基調で推移したものの、新興国景気の減速といった海外経済の下振れ懸念もあり、景気の先行きは依然として不透明な状況となりました。

流通業界におきましては、消費税率引き上げに伴う需要悪化が懸念されたものの、外国人観光客による消費拡大がプラス要因となるなど地域や業種によって影響度は限定的となりました。一方、原油価格の高騰や電気料金等の値上げに加え、人材不足による労務費上昇などのコスト増が懸念材料となるなど引き続き予断を許さない事業環境となりました。

このような状況のもと、当第3四半期連結累計期間における当社グループは、成長軌道の確立に向けた重点施策として「ブランド力の向上」、「販売力の強化」、「SPA体制の構築」に取り組んでまいりました。

「ブランド力の向上」につきましては、当社の主力商品となる特別なカットにより大小2つの星が映し出されるダイヤモンド“Wish upon a star”を基軸とした精神価値訴求型のプロモーション活動を実施しました。その結果、「美し過ぎる銅版画家」で知られるアーティスト・小松美羽さんと“Wish upon a star”とのコラボレーションによって生み出された作品が縁結びの神様で有名な出雲大社に奉納され、「出雲大社に輝く初めてダイヤモンド」として歴史的な注目を集めるなど、大きな支持を得ることができました。

「販売力の強化」につきましては、“Wish upon a star”を中心としたプライダル関連商品の販売拡大に努めるとともに、消費税率引き上げ後は需要喚起を目的とした催事への取り組みを強化するなど外部環境に応じた販売施策を推進しました。

「SPA体制の構築」につきましては、正確かつ効率的な受注・発注体制の再整備を行い、SPA体制の基盤となるベトナム子会社との連携を強化しました。さらに、売上機会の損失や欠品率の低減を図るとともに、品質管理や工程管理の安定性を確保することで、更なる品質の向上と供給体制の効率化を進めました。

このような取り組みの結果、“Wish upon a star”の売上は前年同期に比べ336.9%増と大幅な伸びを記録し、それに伴いプライダル関連商品の売上も24.5%増となったことが要因となり、売上高は前年同期比6.7%増となりました。

売上総利益に関しては、“Wish upon a star”シリーズの売上構成比が16.8%まで拡大するなど高付加価値商品の販売が堅調だったことに加え、ベトナム子会社の有効活用により同社製品の売上高構成比が36.5%まで上昇し、全体的な商品原価の低減が実現したため、前年同期比12.1%増と大幅に増加しました。

販売費及び一般管理費に関しては、各種プロモーションやイベント催事を中心とした販促強化策の推進に加え、新規出店に伴う出店費用や維持管理費用、さらに販売スタッフの補強や将来成長に備えた人材育成のために要した費用等が影響し、前年同期比8.2%増となりました。

海外小売部門である在台湾子会社の台湾貞松股份有限公司（日本名：台湾貞松株）に関しては、引き続きグループマネジメント体制の強化によりブランド認知度が向上し、店舗収益が大きく改善しました。海外生産部門であるベトナム子会社のD&Q JEWELLERY Co., Ltd.（日本名：ディーアンドキュー ジュエリー）に関しては、SPA体制の構築に対応するため、製造機能の向上によるグループ全体の合理化・効率化を図りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高6,145百万円（前年同四半期比6.7%増）、営業利益132百万円（前年同四半期営業損失5百万円）、経常利益109百万円（前年同四半期経常損失19百万円）、四半期純利益36百万円（前年同四半期純損失54百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は6,125百万円となり、前連結会計年度末に比べ366百万円増加いたしました。その要因は主に、商品及び製品が213百万円、原材料が69百万円、有形固定資産が36百万円、差入保証金が14百万円増加したものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は4,673百万円となり、前連結会計年度末に比べ339百万円増加いたしました。その要因は主に、支払手形及び買掛金が320百万円、社債が50百万円減少したものの、借入金の総額が485百万円、未払金及び未払費用が128百万円、未払法人税等が28百万円、退職給付引当金が15百万円増加したものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は1,451百万円となり、前連結会計年度末に比べ27百万円増加いたしました。その要因は主に、四半期純利益36百万円の計上、配当金の支払22百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は23.4%となり、前連結会計年度末に比べ1.1ポイント減少いたしました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,120,000
計	30,120,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年5月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年7月11日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	11,387,000	11,387,000	東京証券取引所 JASDAQ市場 (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	11,387,000	11,387,000		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年3月1日～ 平成26年5月31日		11,387,000		743,392		550,701

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成26年2月28日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成26年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 135,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,245,000	11,245	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準的な株式
単元未満株式	普通株式 7,000		同上
発行済株式総数	11,387,000		
総株主の議決権		11,245	

【自己株式等】

平成26年2月28日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社サダマツ	長崎県大村市本町458番地9	135,000		135,000	1.19
計		135,000		135,000	1.19

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の自己名義所有株式数は135,000株、その発行済株式総数に対する所有割合は1.19%であります。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年3月1日から平成26年5月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年9月1日から平成26年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、UHY東京監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	728,889	738,499
受取手形及び売掛金	598,635	580,936
商品及び製品	2,743,835	2,957,644
原材料	414,384	483,873
繰延税金資産	18,587	22,661
その他	108,055	136,182
貸倒引当金	1,199	1,233
流動資産合計	4,611,187	4,918,564
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	403,082	454,082
減価償却累計額	202,333	236,846
減損損失累計額	9,010	4,036
建物及び構築物(純額)	191,738	213,199
機械装置及び運搬具	56,745	59,357
減価償却累計額	41,627	46,978
機械装置及び運搬具(純額)	15,117	12,379
工具、器具及び備品	180,973	205,223
減価償却累計額	115,456	133,990
減損損失累計額	904	904
工具、器具及び備品(純額)	64,612	70,328
土地	90,478	90,478
リース資産	123,654	156,378
減価償却累計額	48,851	69,540
リース資産(純額)	74,802	86,838
有形固定資産合計	436,750	473,224
無形固定資産	14,039	14,399
投資その他の資産		
投資有価証券	97,619	97,764
繰延税金資産	55,357	60,139
差入保証金	439,374	453,721
その他	102,587	107,715
貸倒引当金	6,076	6,279
投資その他の資産合計	688,862	713,061
固定資産合計	1,139,652	1,200,685
繰延資産	7,526	5,833
資産合計	5,758,366	6,125,083

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年 8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年 5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	772,674	452,258
短期借入金	1,780,906	2,158,808
1年内償還予定の社債	100,000	100,000
未払金及び未払費用	450,946	579,456
未払法人税等	20,673	49,440
賞与引当金	21,961	17,295
その他	188,721	226,060
流動負債合計	3,335,884	3,583,318
固定負債		
社債	250,000	200,000
長期借入金	443,521	550,658
退職給付引当金	152,378	167,737
その他	152,672	172,135
固定負債合計	998,571	1,090,530
負債合計	4,334,456	4,673,849
純資産の部		
株主資本		
資本金	743,392	743,392
資本剰余金	550,701	550,701
利益剰余金	155,658	169,384
自己株式	12,674	12,746
株主資本合計	1,437,077	1,450,730
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	83	228
為替換算調整勘定	24,921	16,051
その他の包括利益累計額合計	24,838	15,823
新株予約権	11,671	16,326
純資産合計	1,423,910	1,451,233
負債純資産合計	5,758,366	6,125,083

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)
売上高	5,759,542	6,145,804
売上原価	2,281,216	2,245,041
売上総利益	3,478,325	3,900,763
販売費及び一般管理費	3,483,791	3,768,692
営業利益又は営業損失()	5,465	132,071
営業外収益		
受取利息	1,104	983
受取家賃	857	857
協賛金収入	2,271	3,607
為替差益	18,915	6,235
その他	1,168	1,458
営業外収益合計	24,317	13,143
営業外費用		
支払利息	29,040	26,552
社債利息	1,947	1,485
社債発行費償却	1,693	1,703
社債保証料	2,350	1,815
その他	2,921	4,619
営業外費用合計	37,952	36,177
経常利益又は経常損失()	19,100	109,037
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	19,100	109,037
法人税、住民税及び事業税	34,135	81,665
法人税等調整額	1,496	8,856
法人税等合計	35,631	72,808
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	54,732	36,228
四半期純利益又は四半期純損失()	54,732	36,228

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年9月1日 至 平成25年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年9月1日 至 平成26年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	54,732	36,228
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	487	145
為替換算調整勘定	42,595	8,869
その他の包括利益合計	43,082	9,014
四半期包括利益	11,649	45,243
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,649	45,243

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当座貸越契約及び貸出コミットメント契約

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行10行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。

当第3四半期連結会計期間末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入金未実行残高等は次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	2,250,000千円	2,250,000千円
借入実行残高	1,450,000	1,850,000
差引額	800,000	400,000

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)
減価償却費	82,708千円	94,131千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月28日 定時株主総会	普通株式	22,193	2.00	平成24年8月31日	平成24年11月29日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月27日 定時株主総会	普通株式	22,503	2.00	平成25年8月31日	平成25年11月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)

当社グループは、宝飾、眼鏡、時計の製造及び販売の単一セグメントであるため、記載を省略していません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	4円91銭	3円22銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	54,732	36,228
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	54,732	36,228
普通株式の期中平均株式数(株)	11,138,348	11,251,406
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	-	3円16銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	225,046.84
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年7月11日

株式会社サダマツ
取締役会 御中

UHY東京監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 谷田 修一

指定社員
業務執行社員 公認会計士 片岡 嘉徳

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社サダマツの平成25年9月1日から平成26年8月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年3月1日から平成26年5月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年9月1日から平成26年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社サダマツ及び連結子会社の平成26年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。